



2024年4月9日

各 位

伊豆シャボテンリゾート株式会社
代表取締役社長 北本 幸寛
(コード番号 6819 東証スタンダード市場)
問い合わせ先
経営企画室室長 桑原 亮介
電話番号 03-5464-2380

当社子会社動物関連施設の来場者数に関するお知らせ (過去30年で最多を記録いたしました。)

当社の子会社である株式会社伊豆シャボテン公園が運営する伊豆シャボテン動物公園及びアニタッチの2024年3月期の来場者数について、過去30年で最多を記録いたしましたので別紙のとおりお知らせいたします。

伊豆シャボテン動物公園グループ 動物関連施設
2023 年度年間来場者数 90 万人突破

～ シャボテン×アニタッチ、全国動物園来場者ランキング第 10 位に相当、
民間企業経営施設では第 2 位に 今期来場者目標を 120 万人に～

2024 年 4 月 9 日
伊豆シャボテンリゾート株式会社



昨年 2023 年 4 月からの年度内において、伊豆シャボテン動物公園グループは、過年度最大となる年間来場者数 200 万人をお迎えすることができました(2024 年 3 月 16 日に到達。年度末 3 月末日時点ではおおよそ 207 万人)。

中でも、ご来訪下さったお客様に最もご愛顧いただいたのが当グループの根幹とも言える「動物関連施設」です。そしてこの度、該当施設である「伊豆シャボテン動物公園とアニタッチ」を合わせた年間来場者数が 90 万人に達しましたことをここにお知らせいたします(2024 年 3 月末日)。

なお、本数値を、全国の主要レジャー・集客施設の運営実績・動向調査(直近期)をまとめた総合誌「レジャーランド&レクパーク総覧 2024」(2023 年 10 月 31 日発行、総合ユニコム株式会社)のランキングに当てはめると、動物展示関連施設全国 73 施設中、「第 10 位」に該当する結果となりました。またその内、民間企業が経営を行う施設としては全国「第 2 位」に該当する結果となりました(ともに水族館は除く)。

当動物関連施設のメイン施設である「伊豆シャボテン動物公園」は 1959 年に開園し(※)、今年で 65 周年を迎えます。開園当初より動物の放し飼いや檻のない環境での飼育を実施するなど、先駆的な発想を実現化してまいりました。その一つが、いまや国内のみならず海外にも人気波及している「カピバラの露天風呂」です。こちらは当園において 1982 年にスタートしたもので、まさにカピバラ温浴展示の元祖となっております。また近年では、園内中央に位置する池にある大小 9 つの島をボートで巡り、動物たちとふれあい、観察ができるといった国内唯一の展示方法を採用した「アニマルボートツアーズ」を開始するなど、ユニークな発想と精神は開園当時から現在に至るまで、脈々と受け継がれております。

そして近年新たに、この伊豆シャボテン動物公園の歴史により蓄積された経験やノウハウを活かし、事業展開を果たしたのがシャボテン動物公園の屋内型サテライト施設ともいえる「アニタッチ」です。当施設では、動物との距離の近さ、人と動物との共生といった理念をそのままに、伊豆から遠く離れた都会においても動物の生態を学びながらふれあい体験を楽しむことができる屋内型ふれあい動物園となっております。2021 年に神奈川県横浜市に第 1 号店を開店、現在では全国 5 店舗に拡大中であり、ご来場者様にはご好評をいただいております。

こうした取り組みの中、今期においては「動物関連施設への来場者数 120 万人」を目標に掲げ、さらなる努力を行ってまいります。集客数を前年度 90 万人から今年度 120 万人にといった数値は、かなり高いハードルに思われがちですが、アニタッチみなとみらい(神奈川県横浜市)が 1 号店としてオープンした 2021 年 10 月以降、当事業においては年間約 40 万人のお客様に訪れていただける状況に成長いたしております。また、当動物関連施設のメイン施設である伊豆シャボテン動物公園におきましては、インバウンドの復調が顕著にみられ、前年度はコロナ前の 2019 年度対比で約 2 倍、2022 年度との対比では 8 倍以上という驚異的な伸び率とに至っております。これは、海外の TV 局および著名な動画発信者らの取材により、海外での「カピバラの露天風呂」人気に拍車がかかり、その元祖として伊豆シャボテン動物公園が聖地化し、タイや欧米からの個人客も急増してまいりましたことが大きな要因です。今後も、SNS 発信の強化、諸外国旅行サイトへの出稿、国外旅行代理店へのさらなるアプローチといった取り組みにより、これまで以上の来日来園者を見込んでいます。

今期、来場者数 120 万人を達成できたあかつきには、全国の動物展示関連施設における順位は、国内第 5 位に、民間企業経営としては第 1 位に該当するものと予測されます。動物を大切にしながら、また環境にも配慮しながらの取り組みとなるため、急激な成長を無理に推し進めるものではありませんが、より多くの人々に動物とふれあっていただき、その楽しみやお子様の知育にも貢献できますよう、そうしてご来場者様に笑顔になっていただけますよう、今年度もさらなる努力・取り組みを続けてまいります。

当グループをご愛顧いただいておりますお客様に心より感謝申し上げますとともに、これからもますます皆さまに愛される観光施設として成長できますよう、鋭意努力を続けてまいります所存です。

(※)各公園の名称は、現在の施設名を記載しております。